

# 音楽表現を取り入れた外国語活動をめぐる一考察 —中等教育における実践事例をもとに—

時 得 紀 子\*・西 園 友 美\*\*・中 村 浩\*\*\*

(平成25年9月30日受付；平成25年11月5日受理)

## 要 旨

本研究では歌唱活動を通じて、英語の歌曲の音楽リズム、歌詞のイントネーションの学習を中等教育における外国語科の学習活動に積極的に導入している実践事例に着目した。これらの実践への考察から、音楽あるいは外国語学習における異文化理解には、その文化に培われた表現を児童・生徒が体験を通じて習得する活動の重要性が明らかとなった。

さらには筆者らの実践による、外国語科、音楽科、環境教育のクロスカリキュラムのアプローチの成果と課題を基に今後の学校教育におけるカリキュラム開発の必要性も示唆した。

## KEY WORDS

音楽表現 Musical Expression 表現活動 Expressive Activities 学習指導要領 Teaching Guidelines  
外国語教育 Foreign Language Education

## 1 はじめに

わが国の子どもたちの課題とされる、表現・コミュニケーション力の不足は、極めて深刻な状況にあることが叫ばれて久しい。このコミュニケーション力の育成は、音楽、美術といった芸術教科のみならず、幅広い教科の学習活動の中であまねく培われることが望ましいと筆者らは捉えている。こうした発想に立ち、本研究では、歌唱や身体表現を取り入れた外国語活動の実践事例に着目し、子どものコミュニケーション力の育成に向けての成果と課題について論考を試みる。

具体的には本研究において、音楽科における歌唱活動の音楽リズム、歌詞のイントネーションの学習を外国語活動に積極的に導入している実践等を取り上げる。この研究では、音楽あるいは外国語の学習において、異なる文化を理解するためには、その文化に培われた表現（本論では、音楽表現や身体表現などを対象とする）の体験を通じて習得することが重要ではなからうかという筆者らの共通認識がバックボーンとなっている。

## 2 ラップ（無伴奏）の歌唱を取り入れた実践と考察

### 2.1 対象と方法

- ① 対象校 新潟大学教育学部 附属長岡中学校
- ② 指導者 英語科教諭
- ③ 対象者—1年生1学級39名
- ④ 授業日—平成24年、3月15日（金）3限
- ⑤ 主な授業の流れ
  - ・Opening Song 『Hallo Goodbye.』 The Beatles
  - ・Skitに挑戦！ “Which do you want, beef or chicken?”
  - ・リズムにのってSpeechのパターンを覚えよう！（表1参照）
  - ・Closing Song 『Let it be.』 The Beatles

表1 ラップの歌詞

## Speechのパターンを覚えよう！

- ① Hello, everyone.
- ② I'm Ito Emi.
- ③ This is a Koala key chain.
- ④ My brother Yuji gave it to me.
- ⑤ He studied English during summer vacation in Australia.
- ⑥ He got this key chain in Sydney.
- ⑦ I like it very much.
- ⑧ I always keep it on my bag.
- ⑨ Thank you.

本授業実践への授業観察授業後に生徒を対象として意識調査を試みた。紙幅の都合上、これらの調査結果と考察について以下、概略的に述べる。

## 2. 2 授業観察を通じた生徒の様子

- ① 50分の授業の中で、歌、Skit, Training, Speechのパターン練習など、内容が盛り沢山で、スピード感のある授業であった。生徒も緊張感を持っており、授業の全体を通じて集中力が途切れることなく活動に取り組んでいた。
- ② Opening Songの『Hallo Goodbye.』で、一人一人が集中して歌詞を追っている姿が見られた。途中、指導者が「Clap your hands.」と生徒に声をかけたことで、小さい動きではあったが、生徒らは、ビートに合わせて手をたたくという活動に親しめるようになっていった。さらに、歌い終わった後、歌を共有できた達成感から、クラスに自然と拍手がわき起こった。
- ③ 「ラップでスピーチの型を身につけよう！」の指導者の導入においては、キーボードや先生の表情、声量で他の活動と違いを出し、生徒を引き付けていた。Skitの活動では、ペアになって練習したが、生徒は、ラップの練習の方が積極的に活動に取り組んでいる様子であった。

## 2. 3 アンケート調査とその結果

本授業参観後、平成24年3月18日に英語の授業と英語の歌にかかわる記述式アンケート調査を受講した生徒を対象に実施した。生徒に実施したアンケートの質問項目は、以下の通りである。また、その結果を表2, 3に示す。

## 英語の授業について

- ① あなたは授業で、英語の歌を聞くことは好きですか。
- ② あなたは授業で、英語の歌を歌うことは好きですか。
- ③ 英語の授業で英語の歌を聞くことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思いますか。
- ④ ③の質問で、あなたが答えた理由を書いてください。
- ⑤ 英語の授業で英語の歌を歌うことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思いますか。
- ⑥ ⑤の質問で、あなたが答えた理由を書いてください。
- ⑦ あなたは英語の授業で、どのような活動ができたら楽しいと思いますか？

表2 英語の歌に関する質問項目④および⑤への回答から

質問項目④への主な回答	質問項目⑤への主な回答
<肯定的な意見> ・歌を聞くことで覚えられる。 ・発音練習にもなるし、なにより楽しく覚えられる。 ・聞いて、日本語の意味と関連づけるといい。 ・音楽はリズムがあるし、楽しく英語の授業をすることができると考えたから。 ・英語の歌を聞くことで、楽しく英語を覚えられる。	<肯定的な意見> ・実際に歌うことで、英語に慣れることができる。 ・歌を歌うことで単語を覚えられるから。 ・リズムや音楽でその英語を覚えられるから。 ・発音のポイントになる。 ・知っている単語が出たとき、より頭に入りやすくなるし、知らない単語も自然と頭に入ってくるから。

- ・リズムで覚えやすいと思います。ペアになって練習すると分からないところが分かる。
  - ・つなげる言葉や省略の仕方が分かるから。
  - ・英語に気軽にふれることができるから。
  - ・正しい英語の発音分かるから。
  - ・英語を身近にすることで、より英語を覚えられると思った。
  - ・リズムにのりながら、英語を覚えられる。頭に入りやすい。覚えやすい。
  - ・楽しく英語を学べるから。どんな意味なのかと興味がわくから。
  - ・大切だから。
  - ・歌だと覚えやすいから。
  - ・リズムに合わせて覚えることができる。
  - ・歌は頭の中にすんなり入ってくるから。
  - ・アメリカやイギリスの世相のほか、新しい単語が分かる。
  - ・生の英語を聞けるから。
  - ・歌は国境を越えて伝わるものだから。
  - ・歌を通してどういう意味なのかを覚えることができるから。
  - ・単語を聞き取ったりすることで、役立つと思う。
  - ・書くより聞く方が覚えられるから。
  - ・歌という親しみやすいものを通じて、英語に対する関心が高まるから。
  - ・英語の歌を聞くことで発音も分かるから。
  - ・単語と単語のつながった発音など、歌うことで役立つと思うから。
  - ・聞くことで耳が英語に慣れてくるかもしれないから。
  - ・英語に慣れ親しむという点について、とても良いから。
  - ・自然と英語が入ってきて覚えられると思うから。
  - ・発音はどうなるのかを聞くため。
  - ・日本では習わない発音などがあるから。
  - ・歌のリズムにのせて、文法を覚えられるから。
  - ・英語力がつくと思うから。
  - ・リズムがあると覚えやすいから。
  - ・分からない単語も歌を聞くと覚えやすくなると思うから。
  - ・CMとかであるように、聞くことでいろいろな文法や単語が覚えられると思うから。
- 〈否定的な意見〉
- ・ふつうに書いたり話したりする方がいいと思う。
  - ・歌詞の意味が分からない。
  - ・つまらないし、すぐ忘れてしまう。(しかし、有名な曲は面白いと思う。)
  - ・英語の歌を歌うことで、その英語の意味を簡単に覚えられる。
  - ・ゲームで楽しく英語ができるから。
  - ・リズムや歌で覚えられるから。
  - ・英語に気軽にふれることができるから。単語の発音や意味をより深く考えられるから。
  - ・正しい発音が身に付くから。
  - ・英語を口に出すいい機会になると思う。
  - ・リズムにのりながら、英語を覚えられる。頭に入りやすい。覚えやすい。
  - ・楽しく英語や英文を覚えられるから。
  - ・発音をシンガーに真似て歌うことで、よい発音になる。
  - ・大切だから。
  - ・歌だと覚えやすいから。
  - ・単語がつながる。歌でつかむことができる。
  - ・歌の歌詞が言えれば、英語も言いやすくなると思うから。
  - ・発音分かる。
  - ・生の英語を真似することで英語を覚える。
  - ・歌は国境を越えて伝わるものだから。
  - ・発音方法を覚えることができるから。
  - ・聞き取ることでのびると思ったから。
  - ・言えないと実際使えないから。
  - ・気になった表現や言い回しを自ら調べたりすることができるから。
  - ・英語に親しみが持てるから。
  - ・聞いて言うことによって生活に役立つ。
  - ・発音したりするから。
  - ・ある程度発音の早いネイティブの歌もあり、練習になるから。
  - ・歌うことで、発音が覚えられると思うから。
  - ・自分で発音してみると覚えられるから。
  - ・発音などが分かる。
  - ・楽しく英語を覚えられるから。
  - ・英語力がつくと思うから。
  - ・歌を歌うことによってもっと英語が好きになると思うから。
  - ・CMとかであるように、聞くことでいろいろな文法や単語が覚えられると思うから。
- 〈否定的な意見〉
- ・ふつうに書いたり話したりする方がいいと思う。
  - ・歌詞の意味が分からない。
  - ・つまらないし、すぐ忘れてしまうから。

表3 英語の授業における活動に関する質問項目⑦への回答から

<p>質問項目⑦への主な回答</p> <p><b>ゲームを行う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームみたいに、友達と英語で話をしたら、楽しいと思う。</li> <li>・ビンゴ、ゲーム等。</li> <li>・テスト対策にもなる英文の読み書きの他にも、楽しく覚えられるゲームなどもしたい。</li> <li>・ゲーム。 ・ビンゴゲーム。</li> <li>・仲間と楽しくゲームをしながらの学習。</li> <li>・ゲームをして競い合う活動。</li> <li>・いろんな表現法をつかいながらゲームする。</li> <li>・ゲームなどで単語を覚える。</li> <li>・みんなと楽しくゲームをする。</li> </ul> <p><b>会話の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなと英語で話すこと。</li> <li>・友達同士で、英語で話す。</li> <li>・同じくらいの年の外国人と話す。</li> <li>・たくさん話すこと。</li> <li>・ペアやグループ内での積極的な英語での会話。</li> <li>・友達と英語で話す</li> <li>・もっと英語の日常的な会話例を学びたいと思う。</li> <li>・先生や人と話をすること。</li> <li>・スカイプなどで外国の人と話をすること。</li> <li>・同じくらいの歳の外国人の子と話すこと。</li> <li>・1時間日本語禁止。英語しかしゃべってはいけない。自分で頑張っって英文を導き出そうとする力がつきそう。</li> </ul> <p><b>歌を歌う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の歌を歌い、単語を覚える。</li> <li>・歌を歌う（ザ・ビートルズ）。</li> <li>・歌を使ったりして楽しく英語を覚えていくことができるような活動をしていく。</li> <li>・洋楽を聞く、歌う。</li> <li>・週に1回英語の曲を歌う。</li> <li>・洋楽を聞く。</li> <li>・英語の歌を歌おう大会。英語の歌をあてよう大会。</li> <li>・歌うこと。</li> <li>・歌を歌う。</li> <li>・歌を歌いながら、簡単に単語を覚えられる活動。</li> </ul> <p><b>その他の記述</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長文の訳や、単語を楽しく覚えられるような活動がしたいと思う。</li> <li>・楽しんでやる。</li> <li>・学習したことを活かせる少し難しい問題を解きたい。</li> <li>・自分の力がのびれば楽しいので役に立つ内容をしたい。</li> <li>・覚えた単語を使って難しい応用問題に取り組んだり、外国の文化に触れられるような文章問題を解いたりしたい。</li> <li>・英語で各国の文化の説明をするような活動ができれば楽しいと思う。</li> <li>・自分だけではできないことを授業でやって、より英語のすばらしさを知れたら楽しい。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2. 4 考察

- ① 質問項目④「英語の授業で英語の歌を聞くことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思いますか。」と質問項目⑥「英語の授業で英語の歌を歌うことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思いますか。」について、否定的な意見も僅かに見られたものの、概ね「楽しい、慣れる、親しみやすい」などの肯定的な意見であった。

- ② 附属長岡中学校の英語の授業では、1年間に数回、“Opening Song”や“Closing Song”としてビートルズの曲を扱っている。こうした教材の活用に対し、生徒から肯定的な記述が多く見られた。その理由として、生徒が音楽を聞いたり歌ったりすることで、学習に対する意欲を高め、興味関心に結び付ける意味においても効果があったことが考えられる。また、指導が選曲した曲に生徒が親しみを感じていることも伺える。
- ③ アンケート⑦の「あなたは英語の授業で、どのような活動ができれば楽しいと思いますか。」について、生徒の記述から、①ゲームを行う②英語で会話する機会を増やしたい③歌を歌うという、大きく3つに分けることができた。その他の記述を含め、英語の授業をもっと充実させたいという生徒の意欲が読み取れた。

## 2. 5 「ラップでスピーチの型を身につけよう！」の授業分析

- ① 「ラップでスピーチの型を身につけよう！」の指導者の導入では、指導者の表情やキーボード、声量で他の活動との違いを出し、生徒を引き付けていた。生徒は、リズムに乗せて英語を話すことを楽しんでいる様子であった。ここで使用されたラップもチャンツと同様に、リズムのみで構成されているので、中学校の生徒にも抵抗なく導入することができていた。また、ラップ独特のアップビートに合わせてリズムカルに語りかける奏法が生徒の興味を引き付け、知らず知らずのうちに文型を覚えていた。
- ② 「ラップでスピーチの型を身につけよう！」の前の、skitやtraining、単語の発音練習においては、生徒の声が小さく、英語を発音することに苦手意識や恥ずかしさを感じた。しかしながら、ラップを活用した後の生徒の表現（表情が明るくなる・声が大きくなる・手でテンポをとる）に変化が見られ、リズムカルに語りかけるラップ特有の奏法は、表現力の育成につながるものと捉えられた。
- ③ 「ラップでスピーチの型を身につけよう！」の後のペア活動においても、変化が見られた。生徒が自らリズムをとり、表現する相手に英語を伝えようという姿を見ることができた。生徒一人一人の自己表現力を高めていく活動という視点からも、ラップは有効であることが観察された。

## 3 ポピュラーソング（生バンド伴奏）の歌唱を取り入れた実践と考察

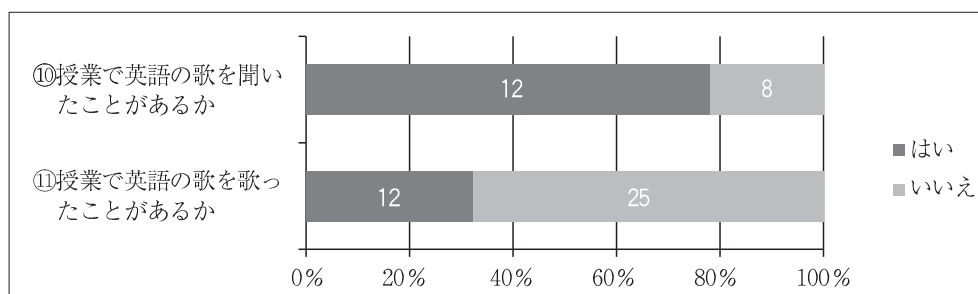


図1 生徒のこれまでの授業における英語の歌とのかかわり

### 授業で英語の歌を聞いたことがあるか

#### ① ②の具体的な曲名の記述（記述の多い順）

- ・ABCの歌
- ・曜日の歌
- ・クリスマスソング
- ・ビートルズ
- ・Let it be
- ・数字の歌
- ・アビレル・ラビーン
- ・サイモンセズ (simon says)

### 授業で英語の歌を歌ったことがあるか

#### ① ②の具体的な曲名の記述（記述の多い順）

- ・クリスマスソング

- ・ABCの歌
- ・Let it be.
- ・曜日の歌
- ・数字の歌
- ・We wish a merry christmas
- ・ジングルベル
- ・サイモンセズ (simon says)
- ・ビートルズ

### 3. 1 研究の目的

本研究は、英語科、音楽科、環境教育、表現活動によるクロスカリキュラムによる授業を実践し、主として以下の点について焦点を絞り、明らかにするものである。

- (1) クロスカリキュラムによる授業は、生徒が音楽の特徴を理解したり、歌唱の際の広義の表現力を培う上で、どのような効果をもたらすか。
- (2) クロスカリキュラムによる授業は、生徒の英語力の伸長にどのような影響を及ぼすか。

### 3. 2 対象と方法

対象者は、上越教育大学附属中学校2年生1学級40名(男子20名、女子20名)とし、単元の総時数は5時間で授業実践を行った。なお、対象とした生徒の英語の歌とのかかわりは、図1に示す通りである。授業実施日は平成20年、11月4、5、6日にそれぞれ1時間ずつ、合計3時間は主として英語科を中心とした学習とし、クラス担任でもある英語科教諭Aが担当した。この3時間には音楽を担当する大学教員Tも授業の参与観察を行い、必要に応じて歌唱指導に携わった。

さらに12月9日の4、5時間目は4名のミュージシャンたちも加わり、セッションの本番を最終の5時間日に行った。なお、12月9日における授業の対象人数は欠席者を除く37名(男子18名、女子19名)であった。同日実施の2時間続きの授業における指導スタッフの内訳は次の通りである。

歌の伴奏および歌唱指導は次の6名のスタッフで構成：ギター2名：英語科教諭B、および大学院生N、ベース1名：大学院生H、ボイス・パーカッション1名：学部生K、歌唱指導2名：音楽科大学教員T、英語科教諭A。

測定具は、5段階尺度形式と記述による、事前14項目、事後11項目の調査紙を使用した(表4)。生徒への事前事後調査共に約20分間の実施時間で各項目の回答を点数化し平均を求めた。ここでいう点数化とは、5段階評価で生徒が肯定的に回答したものを5、否定的を1と点数化し、合計を算出した上で平均を求めたものである。

表4 英語の授業における歌の活動についての事前・事後アンケート

〈事前アンケート〉	〈事後アンケート〉
① 普段、英語の歌を聞きますか。	③ 英語の歌を聞くことは好きですか。
② 普段、英語の歌を歌いますか。	④ 英語の歌を歌うことは好きですか。
③ 英語の歌を聞くことは好きですか。	⑤ 授業で、英語の歌を聞くことは好きですか。
④ 英語の歌を歌うことは好きですか。	⑥ 授業で、英語の歌を歌うことは好きですか。
⑤ 授業で、英語の歌を聞くことは好きですか。	⑦ 英語の授業で英語の歌を聞くことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思いますか。
⑥ 授業で、英語の歌を歌うことは好きですか。	⑧ ⑦の質問で、あなたが答えた理由を書いて下さい。
⑦ 英語の授業で英語の歌を聞くことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思いますか。	⑨ 英語の授業で英語の歌を歌うことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思いますか。
⑧ ⑦の質問で、あなたが答えた理由を書いてください。	⑩ ⑨の質問で、あなたが答えた理由を書いて下さい。
⑨ 英語の授業で英語の歌を歌うことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思いますか。	⑪ この単元の授業を振り返っての感想を書いて下さい。
⑩ ⑨の質問で、あなたが答えた理由を書いてください。	
⑪ 今までの英語の授業で、英語の歌を聞いたことがありますか。	
⑫ ⑪の質問で「はい」と答えた人に聞きます、曲名や歌手など覚えている範囲で書いて下さい。	

⑬ 今までの英語の授業で、英語の歌を <u>歌ったこと</u> はありますか。	※実際に生徒へのアンケート調査では①～⑨として実施したが、本論では棒グラフの表記の関係上、事後アンケートの番号表示を③～⑪に対応させた。すなわち、実際の事後アンケートは①～⑨の9項目において生徒から回答を得ており、それを事前アンケートの項目と対応させるため、番号を変えた。
⑭ ⑬の質問で「はい」と答えた人に聞きます、曲名や歌手など覚えている範囲で書いて下さい。	

### 3. 3 結果

質問項目⑦「英語の授業で英語の歌を聞くことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思いますか。」と質問項目⑨「英語の業で英語の歌を歌うことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思いますか。」についての主な記述は表5の通りである。

表5 英語の歌の効果について

事後アンケート⑦の主な記述	事後アンケート⑨の主な記述
<p>〈肯定的な記述〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌として意識して聞き取ろうとすることで、さらに力を伸ばすことができるから。</li> <li>・歌の中に出てくる単語が少しでもわかるようになるから。</li> <li>・リスニングの勉強になるから。</li> <li>・耳で英語に慣れることで、テストの聞き取りに役立つと思うから。</li> <li>・ただ英文で覚えるより、歌の方が覚えやすいから。</li> <li>・耳に入ってくれば、結構覚えることができるし、その歌の興味から英語への興味が広がるかもしれないから。</li> <li>・本物の英語を聞くことは英語の力を伸ばすと思う。また歌なので親しみやすく、役に立つと思う。</li> <li>・英語の発音がわかり、身近に生の演奏にふれることができるから。</li> <li>・いろんな歌を聞くことができるので、楽しむことができる。</li> </ul> <p>〈否定的な記述〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた方が力が付くから。</li> <li>・歌の発音は、省略されていることが多いので、リスニングにはあまり役に立たず、歌詞の意味を考える、訳すことにしか役立たないと思う。</li> <li>・英語がちゃんと聞き取れるなら、勉強になるだろうが、聞き取れないものも多かったりするのだから、わからない。</li> <li>・英語の教科書の進度が遅くなる。</li> <li>・習っていない単語が出たりして、あまり伸びないと思う。</li> <li>・歌のレベルによる。</li> <li>・発音、アクセントが違うため、普通に勉強した方が実力がつく。</li> </ul>	<p>〈肯定的な記述〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の歌は楽しいので、楽しみながら英語力が付くと思うから。</li> <li>・聞いているだけでなく、歌うことで英語がすらすらしゃべれるようになると思う。</li> <li>・リズムを感じ取ったりすることで、英語の発音もよくなると思うから。</li> <li>・発音や短縮して話すスキルが伸びると思うから。</li> <li>・難しいけど、楽しいから。</li> <li>・歌うときも、日本語の歌と同じように気持ちを込めて歌えるのでいい。</li> <li>・英語の本場の発音、イントネーション、リズムにのせて、楽しく体に覚えさせることができると思う。</li> <li>・普通の授業でも楽しくできるから、英語は楽しいと思えそうだから。</li> <li>・声を出すことで、速く英語を話すことができるから。</li> <li>・歌えばリズムで覚えられると思う。</li> <li>・つながった英語を気軽に使うことができていると思う。</li> <li>・自分で意味を理解しながら歌えば、力が伸びると思う。</li> <li>・歌うことで、楽しみながら力を伸ばすことができる。</li> <li>・しっかりと正しい英語の発音を身に付けることができると思うし、表現力をつけることができる。</li> </ul> <p>〈否定的な記述〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書いた方が力が付くから。</li> <li>・英語ではなく、日本語でしゃべるように発音してしまうから。</li> <li>・あまり歌っていても、単語の意味がわかっていないとだめなように思うから。</li> <li>・歌っていても発音がわからないまま歌っているかもしれないから。</li> <li>・英語の教科書の進度が遅くなる。</li> <li>・歌のレベルによる。(歌えるものは力になるが、歌えないものは意味がない)</li> <li>・発音、アクセントが違うため、普通に勉強した方が実力がつく。</li> </ul>

表 6 音楽科の視点からの英語の歌の効果について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかりと正しい英語の発音を身に付けることができると思うし、表現力をつけることができ、ミュージカル等にも生かせると思うから。</li> <li>・英語の本場の発音、イントネーション、リズムにのせて、楽しく体に覚えさせることができると思う。</li> <li>・歌えばリズムで覚えられると思う。</li> <li>・英語の発音がわかり、身近に生の演奏にふれることができるから。</li> <li>・いろいろな歌を聞くことができるので楽しむことができる。</li> <li>・歌の中に出てくる単語が少しでもわかるようになるから。</li> <li>・歌で英語に慣れておくと、リスニングに役立つから。</li> <li>・英語の歌は楽しいので、楽しみながら英語力が付くと思うから。</li> <li>・歌うことによって単語の発音やししゃべり方が確実になるから。</li> <li>・英語の歌を聞いて、リズムを感じ取ったり、英語の発音もよくなると思うから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つながった英語を気軽に使うことができていると思う。</li> <li>・歌うことで、知らない単語や発音がわかる。</li> <li>・自分で意味を理解しながら歌えば、力が伸びると思う。</li> <li>・歌えば身につくことも多いけど、聞くだけだと意味もよくわからないから。</li> <li>・ただ英文で覚えるより、歌の方が覚えやすいから。</li> <li>・耳に入ってくれば、結構覚えることができるし、その歌の興味から英語への・興味が広がるかもしれないから。</li> <li>・英語の歌を聞くことで、相手と会話するときの練習になるから。</li> <li>・本物の英語を聞くことは英語の力を伸ばすと思う。また歌なので親しみやすく、役に立つと思う。</li> <li>・リズムに乗ることで、発音がより正確に導かれたり、イントネーションの感覚が把握できた。</li> <li>・歌うときも、日本語の歌と同じように気持ちを込めて歌えるのでいいと思う。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

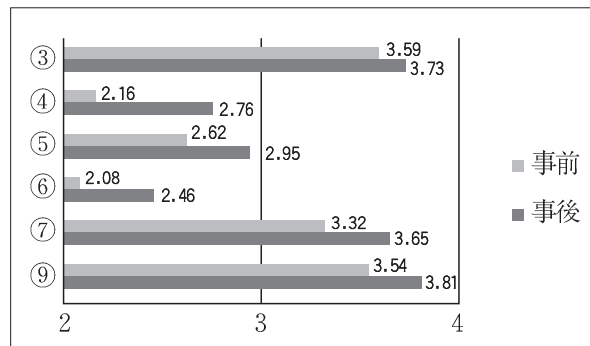


図 2 調査項目の事前事後の比較

3. 4 音楽表現を取り入れた授業の、生徒の英語力の伸長に及ぼす影響

図2からも明らかなように、全ての質問項目について数値の上昇が見られた。項目⑦の、英語の歌を聞くことは英語力を伸ばすことに役立つと思うかという問い、および項目⑨の英語の歌を歌うことは、英語の力を伸ばすことに役立つと思うかという問いに着目すると、否定的な意見の記述も僅かに見られるものの、多くの生徒が授業の有効性を記述していることに加え、かなりの数値の上昇が見られることから、この授業の成果が認められるものと捉えられる。

多くの生徒の記述からも、この授業は生徒の英語力、主に「聞く」と「話す」力の両方の伸長に有効であったと考えられる。また、項目⑤の、英語の歌を聞くことは好きかという問いや、⑥の英語の歌を歌うことは好きかという問いに着目すると、前述の問いよりもさらに大幅な数値の上昇が見られ、特に歌う活動後の大幅な伸びからも、クロスカリキュラムによる授業は生徒の英語に対する興味関心を高めるのに有効であったと考えられる。これは前述の音楽や表現活動の視点からのパフォーマンス評価からも裏付けられる。

その一方で、英語の視点からのパフォーマンス評価および生徒の記述からの成果の事例を述べるならば、語と語の連結による読み方の変化について、などを体得することができたという点であろう。英語の歌を歌う際には一語一語切り離して発音せず、複数の語を連続して発音するケースが多い。語と語の連結により、英語をなめらかにかつリズムミカルに話すことができるような会話の練習につながることを指摘する生徒も見られた(表6)。こうしたセンテンスがこの歌の中にはふんだんに登場しており、文章を読むだけでは把握しにくい連語の読み方や発音の変化を歌に乗せることにより、スムーズに会得することができたと答えている。



また、リズム、イントネーションなどの音楽的な要素はもちろん、英語の歌詞からは生活習慣、歌の合間のアドリブ的な相づちの打ち方など、生徒にとっては未知のスタイルに満ちている題材であったようだ。そうした異なる文化の表現の持つ、新鮮な表現に戸惑いながらも、興味関心を示していたことが、上記の音楽科の視点から抽出された記述からも読み取れる。

この他にも、歌詞のやり取りが英会話に生かされると答えた生徒がいたが、歌手のJ. ジョンソンがバックコーラスの子どもたちにリサイクルを実現するためのさまざまな提案を語りかけるような歌い方をしていることから、生徒らは口語表現を学んでいた、コミュニケーションの間合いを感じ取っていたのではないかと受け止める。

この楽曲におけるその他の特徴として、上昇調と下降調の発音やイントネーションが頻繁に登場する。全単元を通じても僅か5時間という授業時間内の学習であったため、中間部分の難しい箇所を含む一部の箇所については、習得と完成に至らなかったものの、難易度の高い部分における歌詞の把握では、生徒の記述からもイメージとしてはできそうだと、との感想が得られていた。

### 3. 5 教育的示唆

本実践の一環として実施した、生徒への質問及びその回答が示すように、英語、音楽（歌、表現）に関する興味関心は授業前よりも、歌唱と共に創作活動の授業を経て後、格段にその高まりが認められた。同様に聞く力、話す力の伸長も生徒の記述回答から、授業後にその成果が認められた。

また、今回の実践において特筆すべきは、想定外の男子の身体表現の続出であった。授業前は、性差による表現活動の違いや授業前後の歌唱活動への意識の違いはあまり見られないのではないかと仮説を立てていた。しかし、仮説の想定をはるかに超え、パフォーマンスにおいては男子の積極的な身体表現活動が得られた。マイクを持って自主的に前に飛び出して歌い出す生徒がいたり、EXILEの動きを取り入れるグループなど、男子3グループの全てから、さまざまな身体表現を伴うクリエイティブな創作活動が見られた。これは性差や発達段階にも起因するものであろうと捉えられる。

その一方で女子は慎重に、まずメロディーと歌詞を把握してからと考えていたため、歌詞の完成度をより重視するグループが多く見られた。そのため、女子はビデオ撮影における身体表現に踏み出すグループは僅か1グループに止まった。しかも、その1グループは、ビデオ撮影を伴う本番の演奏で、5名の女子全員がものおじした様子で、単に歌唱する活動に止まり、用意していた手を動かす振り付けをカメラの前で披露しなかった。この女子の傾向は、性差による発達段階に起因しているものと考えられ、男子が人前で表現を意識せず、奔放に表現する傾向とは対照的に、そうした行為に戸惑いと抵抗を感じているものと捉える。この結果を踏まえ、性差の伴う歌唱の音域への配慮は、授業者側にとって今後の課題となった。女子からの要望によれば、ジャック・ジョンソンが男性であるため、歌のキイが女子生徒には低く、歌いづらかったとのことであった。このことから、今後は授業で採用する楽曲の音域を男女ともに考慮して設定することが見直された。

この3R'sという楽曲の楽譜の入手がこのたびはかなわなかった事情から、生徒の前でこの曲を範唱するために、歌唱指導担当の教員2名は、2か月間かなりの練習を要した。これに比べて、生徒たちは合計4日間、僅か5時間の授業で複雑なリズムを伴うラップ的な歌唱箇所も難なくクリアし、曲の概要を体得することができていた。こうした結果からも、外国語活動における実践の有効性はもとより、中学生の耳や身体感覚が柔軟な年代にこそ、多様な音楽スタイルを全身で体得することはさまざまな音楽文化を吸収する上でも重要であることが一層明らかとなった。

## 4 今後の課題と総括

本研究で取り上げた実践のうち、特にクロスカリキュラムのアプローチでは、各教員が専門分野を超えて得意分野を生かし合い、本来の守備範囲にとらわれず、時には越境し合うことで、生徒の創作活動にも柔軟な発想をもって対応することができなかった。もとより表現力を高めるといった共通の課題を達成するには、必然的に教科の垣根を取り払い、互いの授業の中で培われた学びを生かし合うことが望ましく、理想的なアプローチであるといえよう。

既に小学校高学年における外国語活動の本格的な導入が実施されてから久しい。折しも昨今では、ダンスの学校教育における導入が急速に進められている。こうした動向を受けて、今後は身体表現や歌などの表現活動を積極的に取り入れることで、初等教育の段階から英語圏の芸術文化のベースを、子どもが楽しみながら体得できる学習の推進が期待されよう。

本研究では主として中等教育の実践に焦点をあてて考察を進めてきたが、国際理解教育の視座からも、外国語活動

に音楽表現がかかわることによって、グローバルな視点で異文化の表現様式を子どもが早期に体得することの重要性が示唆された。これを踏まえ、音楽科や英語科を始めとする他教科・領域とのクロスカリキュラムの探求が、初等・中等教育において、今後も積極的に展開されることが切望されるのである。

### 参考文献

- 野上智行 (1996). 『総合的学習への提言—教科をクロスする授業1「クロスカリキュラム」理論と方法』東京：明治図書.
- 時得紀子 (1997). 「総合的学習と表現教育」村川雅弘編著『総合的学習のすすめ』東京：日本文教出版. pp.131-148.
- 時得紀子 (2002). 「総合的な学習における音楽科のかかわり」日本学校音楽教育実践学会編『音楽科と他教科のかかわり』東京：音楽之友社. pp.19-23.
- 教育芸術社 (2006). 『中学校の音楽 1, 2-3上巻, 2-3下巻』
- 文部科学省 (2008). 『中学校学習指導要領解説 音楽編 平成20年9月』東京：教育芸術社.
- 文部科学省 (2008). 『中学校学習指導要領解説 外国語編 平成20年9月』東京：開隆堂.
- 文部科学省 (2008). 『小学校学習指導要領解説 音楽編 平成20年8月』東京：教育芸術社.
- 茂木淳子 (2008). 『小学校英語活動におけるリズム教材の活用が不安や自己効力感に及ぼす影響』上越教育大学修士論文
- 時得紀子・中村浩・水谷桂介(2009). 「クロスカリキュラムを通じた表現の可能性 —英語の歌を教材とした創作活動を通じて—」上越教育大学 学校教育実践センター教育実践研究 第19集 pp.9-18.
- Lynch, P. (2007). Making meaning many ways: An exploratory look at integrating the Arts with classroom curriculum. The Journal of the Art Education Association, vol. 60, no. 4, pp. 33-38.
- McGRAW-HILL. (2000). Share the Music, K-9. New York: McGRAW-HILL School Division.
- New York City Department of Education. (2004). Blueprint for teaching and learning in the arts: Grades K-12. New York: New York City Department of Education.
- Shweder, R. (1991). Thinking Through Cultures. Harvard University Press.

# A Study of Foreign Language Education

—Incorporating Expression Activities Based on a Case Study of Junior High School Education—

Noriko TOKIE\* • Tomomi NISHIZONO\*\* • Hiroshi NAKAMURA\*\*\*

## ABSTRACT

This research focuses on cases of junior high school foreign language education in which study of the rhythm English music and the intonation of its lyrics, through singing activities, is actively being introduced.

Through a study of these cases, as it is clear that in order to gain a better understanding of other cultures, it is necessary for students to feel and experience expressions that have been cultivated by those cultures.

The author also suggests the importance of developing the curriculum from this point forward, with reference to the benefits and drawbacks of a cross-curricular approach involving foreign language, music, and environmental education.

---

\* Music, Fine Arts and physical Education    \*\* Joetsu University of Education (Master's Program)  
\*\*\* Naoetsu Secondary Education School